

自然を守る大河の一滴となることを願って

発行・隔月刊/年間購読料1000円/メール添付無料

ひとしずく



No. 13

2015年4月23日発行

編集・発行/滴（ひとしずく）編集委員会
連絡先/〒857-0834 長崎県佐世保市潮見町1-30-1311松本方

TEL/090-6171-5810 mail/michi30@hyper.ocn.ne.jp

*「滴」誌購読は名前・住所・電話番号をお書きになり、「滴代金」と明記し、郵便振替口座：01750-1-139367「石木川まもり隊」へ

意見広告



失うものは美しいもの

水は足りています

ダムは ほんとうに必要なか皆で考えましょう

4月23日の長崎新聞を
ご覧ください

水需要の予測は 本当に正しいのだろうか？

「佐世保市は慢性的な水不足が続いており、2024年度には4万㎡もの水源不足が予測されるので、解決には石木ダム建設しかない」と市は説明しています。1994年の大洪水から20年間、佐世保市では一度も断水は起きていません。2008年以降、ダムの貯水率の平均は毎年90%を超えています。実際の給水量も年々減少傾向。人口減少や節水機器の普及などに起因するもので、日本全国の水需要は減少し続けています。しかし、佐世保市の予測は急激な増加傾向を示しています。下のグラフは、2012年度の石木ダム事業再評価の際に示した新たな水需要予測です。一日最大給水量の予測値は2014年度から急激に増加していますが、実績値は減少、その差は14,500㎡にも達します。工場用水の予測値は4年間で3.5倍(2011年度実績値に対して2015年度予測値)という数字です。ダム検証のあり方を問う科学者の会から「極めつきの虚構」と評されました。適切な水需給計画を立てることが望まれます。



石木ダムは川棚川の治水対策に 本当に役に立つのだろうか？

川棚町民は戦後70年間に4回の洪水被害を経験していますが、最後の1990年の洪水後におこなわれてきた河川改修により対策がすすみました。改修工事が全て完了すると、過去4回と同程度の大雨が降った場合、石木ダムがなくても川は溢れないと果も認めています。それでも100年に1度の大雨に対応するため、石木ダムが必要だとしています。河川工学の専門家によれば「100年に1度の大雨の場合の水位を計算すると、堤防の若干の嵩上げ(最高4cm)を川棚川の非常に短い区間で行いさえすれば十分に対応でき、費用はた

いたものではない。野口川などの支流の氾濫や内水氾濫の対策を講じることが急務であり、それを怠れば、仮に石木ダムを造っても1990年のような水害を防ぐことはできない」と指摘しています。近年は想定外のゲリラ豪雨なども頻発しています。想定外の大雨にもなるダムからの放流でいっしょに水量が増し、かえって深刻な被害をもたらすケースも報告されています。

ダム建設のコスト285億円は 誰が負担するのか？

石木ダム事業は長崎県と佐世保市の共同事業で、その負担割合は県が65%(約185億円)で佐世保市が35%(約100億円)です。そして、県や市にはそれぞれからの補助金が交付されます。県には国土交通省から半分(92億5千万円)が、佐世保市には厚生労働省から3分の1(33億2千万円)が補助されます。つまり、石木ダムには日本国民の税金も126億円近く使われることになっています。国の抱える財政赤字は期々と増え続け、国民一人当たりの借金額が1千万円を超えている今、税金の使い道は吟味する必要があります。また、関連水道施設の整備が必要で、その費用254億円の9割以上が佐世保市負担です。ダム建設費と合わせて、佐世保市負担の総額は298億円にもなりますが、この事実をほとんどの市民は知りません。そして、その財源内訳は一般会計出資金53億円、水道局負担金245億円となっています。水需要が減り続け、水道料金収入が減少する水道局。結果的に水道料金の値上げに繋がります。



美しい川原地区と昔ながらのコミュニティーを 次世代に残さなくてよいのだろうか？

石木ダム建設予定地(川原(こうばる))は、春は菜の花、秋はコスモスが咲き乱れ、夏にはゲンジボタルの乱舞も見られます。長崎県レック

長崎県・川棚川支流石木川



ドデータブックの絶滅危惧I類カワガラス、ヤマセミ、トノサマガエル、オナガサナエ、絶滅危惧II類カスミサンショウウオ、ヤマトシマドジョウ、コムラサキ、クロサナエ、オジロサナエなど貴重な生き物が棲息する命あふれるスポットです。石木川は小さな川で、まるで唱歌「春の小川」そのまます。川原で生まれた子どもたちはここで魚を追いかけ、遊び、育ってきました。大人たちは石木川の清流で美味しい米や野菜を作り、元気な子どもを育ててきました。そして、今もここには赤ちゃんからお年寄りまで約60人が暮らしています。まるで1つの大家族のようです。今の日本がどこかに置き忘れてきた風景と人々の絆が残っている、まさに絶滅危惧集落かもしれません。

長崎県が初のケースになるかもしれません。 ダム事業推進のための行政代執行による強制収用

私たち日本人は誰でも財産権や居住権といった人権が憲法によって保障されています。個人の財産は誰からも奪ってはならないはずですが、そこには公共の福祉に反しない限りという制約があります。長崎県や佐世保市は、石木ダム建設は限市民の公共の福祉に資するものとして、現在、強制収用のための手続きを進めています。2014年9月に最初に収用裁決申請された4世帯の農地についてはすでに収用委員会での審理を終え、後は判断を待つばかりです。今後、宅地も収用裁決申請がされ、裁決まで進んだ場合は、明渡し期日までに住民は出ていかねばなりません。従わなければ、知事は行政代執行を命じることができ、人々が暮らしている家を取り壊すことができます。民主主義国家のこの国で13軒の家を取り壊し60人の人々を行政代執行により強制的に追い出すことで実現したダム事業はありません。ほんとうに必要なダムであるかを皆で考えましょう。

協力：石木川まもり隊「いのち育む清流を未来へ」
www.ishikigawa.jp
上記ウェブサイトにて、石木ダム建設計画の見直しを求めら活動にご署名いただけます。

パタゴニア日本支社 神奈川県鎌倉市小町1-13-12 TEL.0467-23-8961 www.patagonia.com/japan

パタゴニアは「石木ダム反対運動」を支援します。
支援を通じて、冷静な議論のもとで計画が見直され、日本における他のダム建設を含む多くの公共工事が再評価されることを願っています。



外国特派員協会で石木ダム！



不安定な春の空のように、石木ダム問題も曇りや晴れや雨模様など様々な動きが続いています。「滴」12号の発行から2ヶ月が経過しましたが、この間のできごとを日付順にお伝えします。

●2月17日 収用委員会結審

昨年9月、県が収用裁決申請した4世帯の地権者の農地約5,000㎡について、県収用委員会は2回目の審理を終え、一応結審としました。

3月末に提出された起業者（県）と地権者双方からの意見書を見て、申請却下か収用裁決かの判断が示されます。その時期は明確ではありませんが、そう遠い先ではないでしょう。また、手続上に大きな瑕疵が無い限り申請が却下になることはほとんど無いと言われていますが、収用裁決されても、今まで通りそこで米作りを続けると地権者の皆さんは断言しています。

●3月8日 街頭署名活動

佐世保市のアーケード街で6回目の強制収用反対の署名活動をおこないました。2時間で274筆。ひところほど多い数ではありませんが、中高生などの若い人も足を止めてくれたのが嬉しかったです。

●3月15日 3.14 団結大会

「石木ダム建設絶対反対同盟」の36回目の団

結大会。弁護団や支援者もたくさん駆けつけ、同盟と共にダム中止に向けて頑張ろう！との思いを新たにしました。青年部による決意表明はユーモアたっぷりで大爆笑。閉会後は婦人部による愛情いっぱいの手作り料理でみんなニコニコ、お箸も話も進みました～（11Pに決議文を掲載）

●3月19日 請願

2年前の石木ダム事業の再評価の際に示された水需要予測が、わずか2年の間に実績値と大きく乖離してきました。この事実を市議の皆さんに提示して、水需要予測を見直すよう水道局に求めてほしいという請願を議会に提出しましたが、石木ダム建設促進特別委員会では全員一致で不採択、本会議でも社民党と共産党の4議員以外は全員反対という結果となりました。佐世保市議会は「歌を忘れたカナリア」と同じ。行政のチェック機構という役目を完全に忘れてしまったようです。（6P～9Pに請願内容と資料を掲載）

●3月24日 仮処分決定

昨年夏の付替え道路工事の際に工事関係者の通行を妨害したとして、県から仮処分の申し立てを受けていた23人中16人（地権者9人＋支援者7人）に対し、長崎地裁佐世保支部は仮処分の決定を下しました。残念ですが予想通り。むしろ仮処分の決定に7か月半も要したのは異例のこと

で、県にとっては大きな誤算。工事が大幅に遅れる結果となりました。

●3月31日 県、説明会開催拒否

弁護団を含む6団体が3月4日に提出した公開質問状への説明要求に対し、県は今回も拒否する回答を送ってきました。昨年7月以来、県はずっと説明の場を持つとしません。何回県庁に行っても、何度公開質問状を出しても、応じません。よほど自信がないのでしょうか…

●4月1日 パタゴニア、石木ダム反対運動全面支援

米国に本社のあるアウトドアの衣料メーカー「パタゴニア」が石木ダム反対運動を全面的に支援するとプレスリリース。「石木ダム建設阻止の支援を通じて、冷静な議論の下で計画が見直され、多くの公共工事が再評価されるきっかけになることを願う」と宣言しました。

●4月3日 佐世保市、公開討論会開催拒否

弁護団を含む6団体が3月23日に文書で申し入れた公開討論会について、佐世保市は拒否の回答を示しました。県同様、こちらも議論すればするほどボロが出そうでビビってる？それとも県から「やるな！」と言われているのでしょうか？

●4月6日 外国特派員協会で記者会見

パタゴニアが東京の日本外国特派員協会での記者会見。日本支社長自ら石木ダムの不要性を説明し、地権者の二人もふる里「こうばる」の自然の素晴らしさと人の絆の深さを、世界に向かって誇り高く訴えました。

●4月12日 県議会議員選挙

佐世保市・北松浦郡選挙区では9の議席に対して11人が立候補。私たち佐世保の2団体は候補者に対し、石木ダムに関するアンケート用紙を送

りましたが、回答を送ってきたのは2人だけ！強制収用には反対するが石木ダム計画の是非については無回答だった吉村庄二氏と、どちらも反対との強い意思を示した石川悟氏。それ以外の候補者は石木ダム問題を全く軽視しているか、それとも有権者を無視しているのか…。長崎県政の未来が危ぶまれます。

●4月13日 県、新たな裁決申請の準備

県は2回目の収用裁決申請に向け準備を着々と進めています。今回は農地だけではなく4世帯の宅地も含まれています。まさに住民を強制的に追い出すための準備です。そのための土地・物件調書への署名受付が始まりました。地権者が署名・押印しなくても、昨年のように川棚町が代理を務め、調書は作成されていくのでしょうか。

以上が、この2ヶ月間の流れです。地権者も支援者も弁護団もできる限りの運動を精一杯やってきて、そのことが「パタゴニア」という力強いサポーターの登場に繋がったと思いますが、行政や議会は何があっても「粛々と進める」ことが使命と思い込んでいるかのよう。

私たちの訴えには耳を塞ぎ、背を向け、その姿勢はだんだん頑なになっているように感じます。しかし、私たちは頑なになることなく、県や市には話し合いを求め続け、市民県民には様々な形で「石木ダムについて考えようよ」と呼びかけていきたいと思っています。

今後の具体的な予定について、お知らせとお願いがあります。

○署名提出

皆様から寄せられた大事な署名の束を、直接知事に手渡したくて交渉中。OKの返事さえあればいつでも提出できるよう準備は整っているのですが…もうしばらくお待ちください。

○付替え道路工事の再開にあたって

報告の中でお伝えしたように、既に仮処分の

決定が下されたので、付け替え道路工事がまもなく再開されるでしょう。連休明け？今回は予告無し？とも言われています。始まれば地権者の皆さんは再び連日「抗議行動」をおこなう予定です。しかし、仮処分を受けた16人はもう参加できません。新たに活動に加わって下さる方が必要です。

「時間のあるときには来ますよ」「何をすればいいのですか？」等々のお声を待っています。電話、メール、手紙など何でもけっこうです。ご協力頂ける方は「滴」連絡先まで宜しくお願い致します。

○クラウドファンディングへご協力をお願い

このたび雨漏りのひどくなった川原公民館の屋根の修理に300万円近いお金がかかるのですが、その一部をインターネット上で呼びかけ寄付を集めるクラウドファンディングという手法を使うことになりました。このメリットは、ただお金を集めるだけでなく、自分たちの夢や課題を見知らぬ多くの人に伝えることができます。

例えば私たちの場合、川原という自然豊かな地域を残したいという夢とそれを阻もうとするダム計画を伝えます。それを知って賛同する方が寄付をされたら、お礼の品（川原の美味しいお米や『ダムのツボ』など金額によって）を送ったりして交流が生まれます。

そんな一石二鳥のクラウドファンディングですが、これを成功させるには、数あるテーマの中から「川原公民館の屋根の修理」のページにいかにかくさんの人を集めるかが鍵となります。そのためにはスタートしてすぐに寄付者が何人も現れるとそのページが注目され、好奇心からより多くの方がそこに集まるようになります。群集心理ってヤツですね。そうそう、「クラウド」というのは「群衆」という意味ですから、まさにそれです。

そこで皆さんにお願いしたいのは、もちろん寄付をして頂ければ一番有難いですが、寄付をしなくてもそのページへアクセスしたり、友人知人の皆さんにこの情報を拡散していただくことです。詳しいことは石木川まもり隊のHPやブログでもお知らせしますので、どうぞよろし

くお願い致します。（次ページもご覧下さい）

他にも、この石木ダム問題をより多くの人に伝え考えてもらうために、様々なプロジェクトが進行中です。私たちは決してあきらめません。事態はだんだん深刻になっていきますが、だからこそ、しぶとくしなやかに、明るく楽しく石木ダム反対運動を続けていきましょう！

（石木川まもり隊 松本美智恵）

石木川まもり隊のHP

<http://www.ishikigawa.jp/>

石木川まもり隊のブログ

<http://blog.goo.ne.jp/hotaru392011>

ブックレットのご案内

崩壊する「ダムの安全神話」

—ダムは命と暮らしを守らない

ダムによらない治水・利水・地域振興を目指して
～球磨川・川辺川からの報告と提起
編集・出版準備委員会/発行・花伝社/定価800円

*「石木川まもり隊」でも取り扱います。
名前、住所、電話番号および「崩壊するダムの安全神話」と明記し、郵便振替口座「石木川まもり隊」に、1000円（税・送料込み）をお振込み下さい。

〈主な内容〉

- I 「ダムによらない治水・利水と地域振興の実現」に関する発言と寄稿
 - まだまだ続く苦難の道 五木村長・和田拓也
 - 「防災安全度」向上を目指すダムによらない治水対策 人吉市長・田中信孝
 - ダムによらない治水を実現するにはどうすればいいのか 京都大名誉教授・今本博健
 - 「身の丈にあった」利水事業の実現 川辺川利水訴訟原告団長・茂吉隆典
- II 特別寄稿に「川原（こうばる）ここにあり」掲載 石木ダム建設絶対反対同盟員・石丸勇

第28回 こうぼる祭

長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷

ほたるカゴ作り体験
金魚すくい・ゲームなど…

産地特産品！



生ビール・ジュース

平成27年5月30日（土）
18時より

こうぼる広場にて

雨天決行

たべもの

手羽先・そうざい・焼きとうもろこし・
ほたるだんご・おでん・ニュー麺・ぜんざい・
焼きそば・もち・えだ豆・フライドポテト・
コロッケ・おこわ・しし肉・ぜんまいの煮しめ…



川原地区のホタル鑑賞期間は5月下旬頃から6月中旬頃までです

川原公民館の屋根を修理した～い

クラウドファンディングが始まります



ほたる祭りの仕込みを毎年行っている川原公民館は老朽化が激しく、屋根がもうボロボロなのです。川棚町は「川原地区はどうせダムに沈むから」と公民館を修理するような支援は一切してくれません。このような古～い木造公民館をずっと大事に使いつづけている集落は、川棚町内ではもうこの川原地区以外にはないでしょうね～。梅雨の時期には雨漏りがひどくて床はカビだらけ！おかげさまで公民館は毎年6月以降は湿気たっぷりのカビ臭～い空間に仕上がります。実は、台所の棚の奥の壁もズボって抜けちゃった。現在、岩壁がむき出しの状態です。こうした中、こうぼるのおばちゃんたちが去年は6回以上も大掃除をしました。おばちゃんたちの地道なメンテナンスのおかげで、なんとか川原公民館はボロボロながらも現役バリバリの公民館としてフルに活用されております。そこで、なんと、あのアウトドアブランド「パタゴニア」日本支社と石木川まもり隊と地元川原地区が一丸となって川原公民館の屋根を修理するために「クラウドファンディング」にチャレンジいたします。

クラウドファンディングとは？ …『Crowd=群衆 Funding=資金調達』という言葉の掛け合わせた造語で、プロジェクトを実行するために必要な資金を、インターネットを通じて支援して頂くことで、プロジェクトの実現までサポートすることを言います。つまり、ネット上で寄付を集めるのです！

寄付の額は、3,000円から、5,000円、10,000円…それに10万円まで。お好きな額を選べます。しかも寄付をしたら、お礼（リターン）がもらえます～【参考例】・「ダムのツボ」やほ一ちゃんの物販グッズ・地元川原地区の減農薬米・パタゴニア製品・地元川原地区で農業体験など…さまざまなお礼（リターン）を準備中です！Facebookとこの「マクアケ」というクラウドファンディングのサイトは連携がとれていますので、アクセスいただければ簡単に寄付をすることができます。このチャレンジ、こうぼるほたる祭りに間に合うよう調整中です！（いしまるはずみ）



請願「水需要予測の見直しを議会から当局に求めてほしい」を不採択

…思考停止の「石木ダム建設促進特別委員会」

3月19日、水問題を考える市民の会と石木川まもり隊で佐世保市議会に提出した請願は不採択になりました。不採択の理由は、こうでした。「国が事業の必要性を認め補助金継続を判断した」「第三者機関がこれでよしと評価した」→だから水需要の実績値が予測値と乖離していても、予測が間違っていたとは言えない。「議会は石木ダム建設促進決議をあげている」「本委員会は石木ダム促進のための委員会だ」→だから需要予測の見直しに賛同すれば矛盾が生じる、整合性がない。あきれた理屈です。「国が認めたものは間違っていない、第三者機関の判断は常に正しい、議会がそれをとやかく言う必要はない」…これでは他人まかせの思考停止です。行政のチェック機関としての市議会の存在理由が問われます。以下、「石木川まもり隊」のブログより転載します。

まず、右のグラフをごらんください。

実線が一日最大給水量の実績値で、点線がその予測値。平成24年度の石木ダム事業の再評価の時に出された予測です。

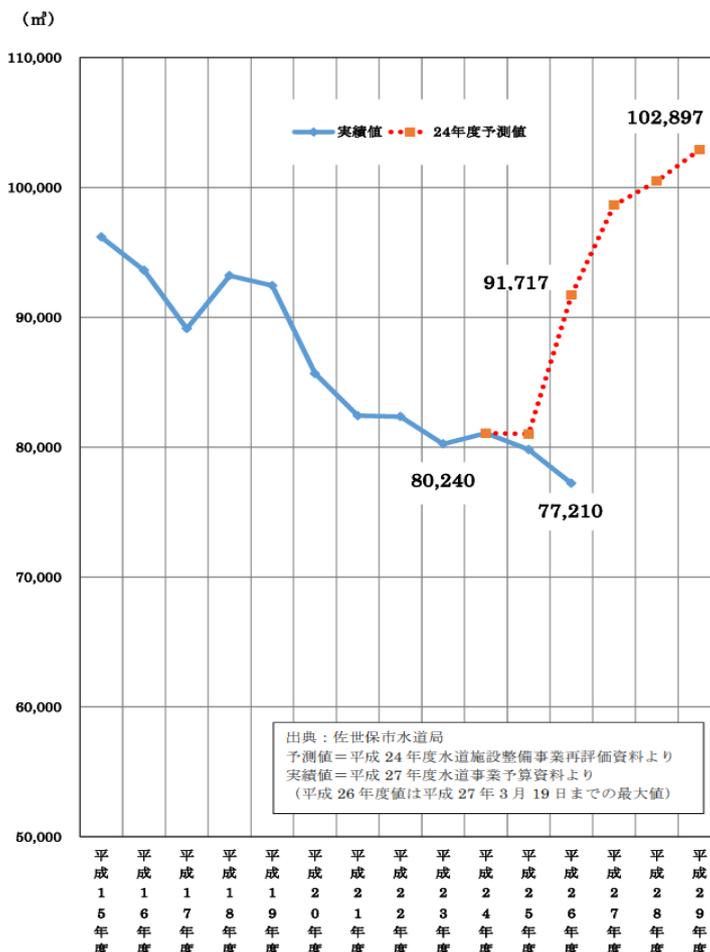
2年後の平成26年度の予測と実績を比べてみると、その開きはこんなにも大きいのです。

予測では、前年度より大幅に増加して91,717 m³になるとのことでしたが、実際には77,210 m³と、前年より減っています。その差、約14,500 m³！

この乖離は今後ますます大きくなるでしょう。

石木ダム完成予定年度の29年度には約10万3千m³に達するとの予測です…。どこから、こんな数字がでてくるのでしょうかね～日本中どこでも

佐世保地区一日最大給水量の実績と予測



全国の水道の一日最大給水量

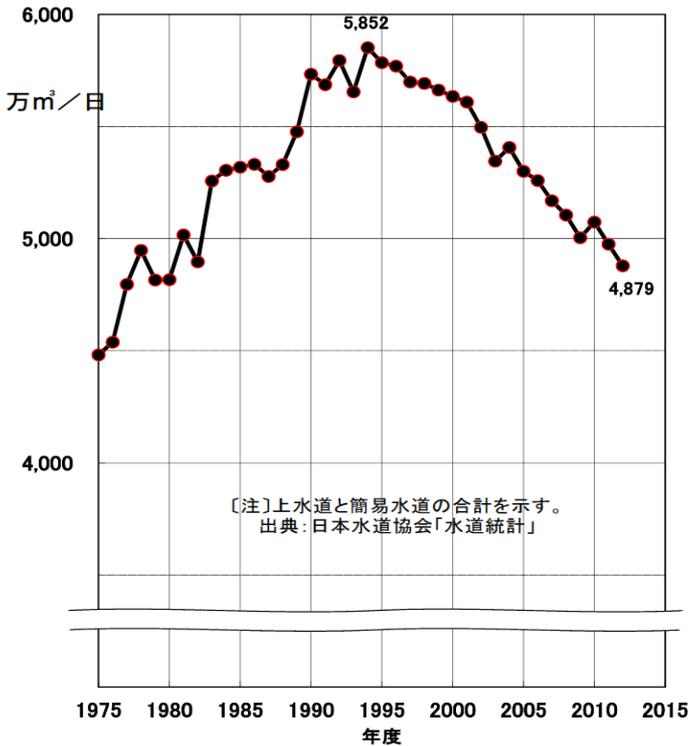
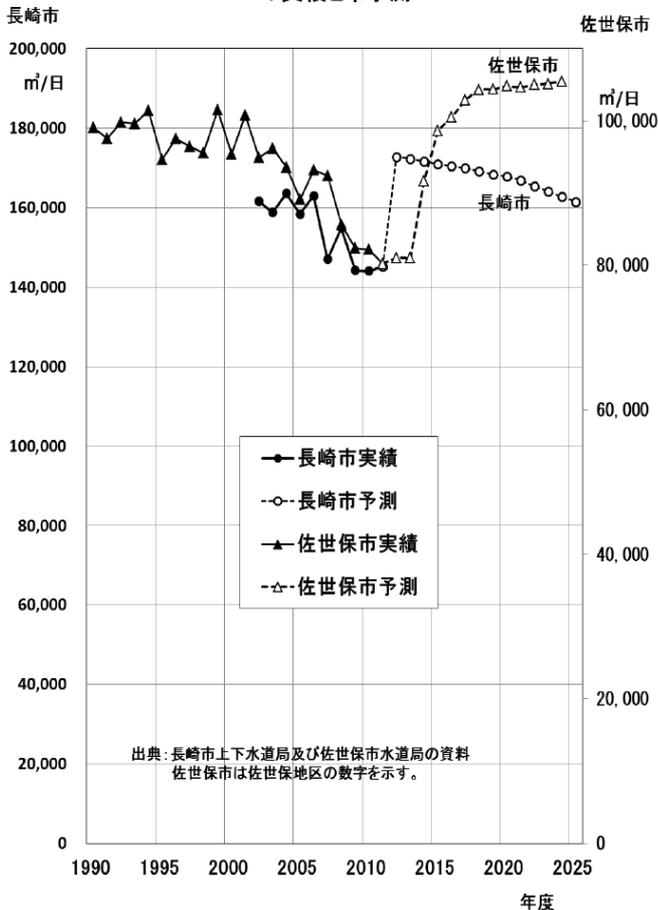


図1 長崎市及び佐世保市水道の一日最大給水量の実績と市予測



水需要は減っているのに。

左が、そのグラフです。

日本中の上水道と簡易水道の一日最大給水量の実績値をグラフ化したもの。1994年以降、ずーっと右肩下がりです。それもそのはず。人口が減っているのですから。使う人が減れば、水使用量が減るのは当たり前。

人口がいまだに増加し続けている東京都でも水需要は減っているのだから、人口減少が激しい佐世保市の水需要が増えるわけではない！

今年2月5日総務省が発表した2014年の人口動向によると、転入者に比べて転出者が多い（人口流出傾向の高い）市町村のランキングで、1718市町村中、長崎市が第5位、佐世保市が第6位と、県内2大都市がトップ10入り！

長崎市はこの厳しい現実を2年前にきっちり受け止めていました。（左下のグラフ）平成24年度の再評価で、水需要予測を見直し、実績値に合わせて右肩下がりに修正しました。その結果、前回まで必要としていた新たな水源7,500m³の必要量はゼロと判断し、本明川ダムから撤退。

諫早市も見直した結果必要量は前回の半分ほどでした。長与町・時津町もダムに依らない水需給計画への変更に賛同し、4市町による県南部水道企業団は今年3月末に解散されました。

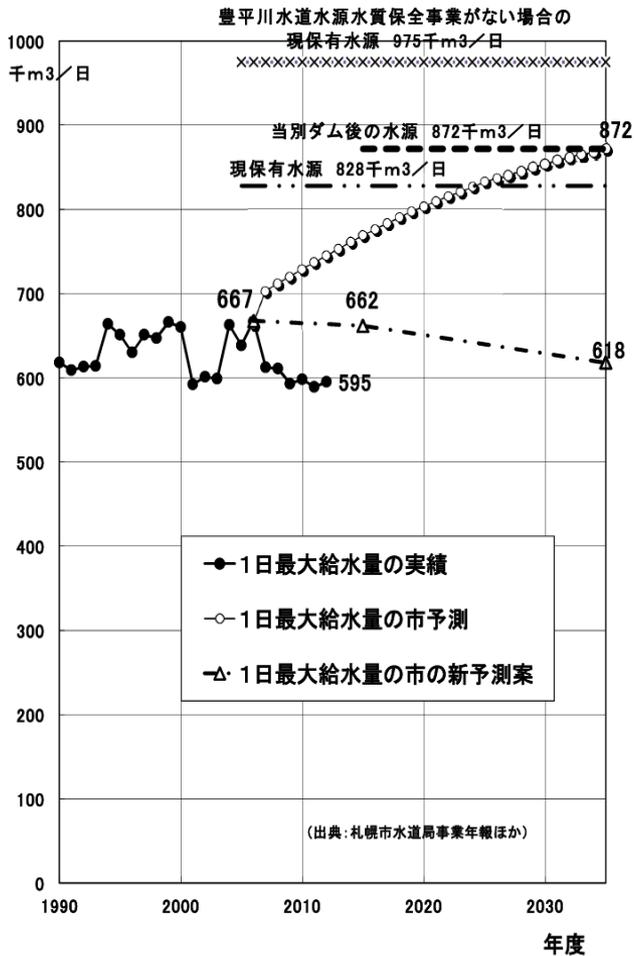
それが決まったときの同企業団長の諫早市長の弁はこうでした。「見通しが甘かったと言われるだろうが、今の時点で中止する方が将来の負担が軽くなると判断した」

一方、決断できなかった札幌市（次ページ）。

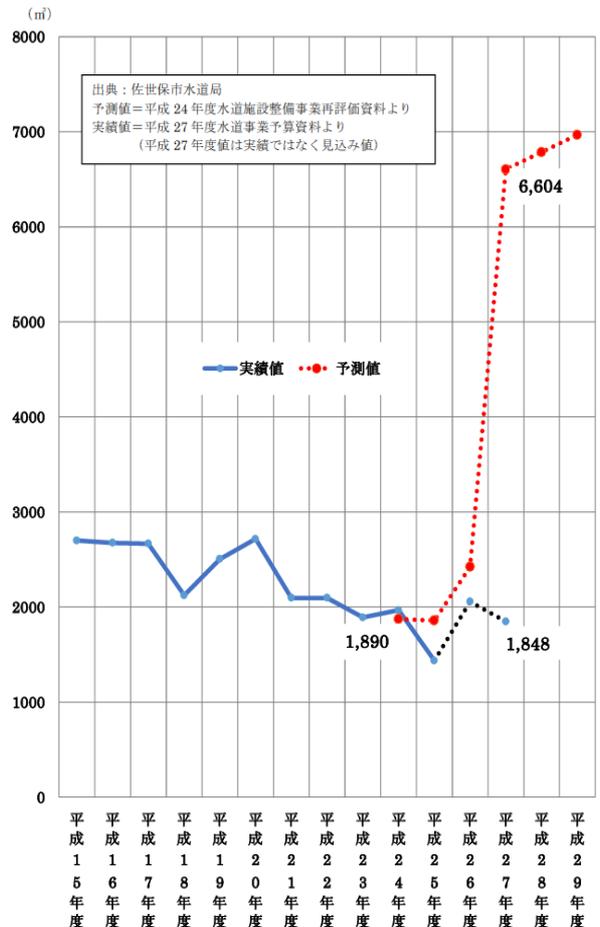
どこかと同じように、予測が過大だと何度も批判されたのですが、将来は20万m³も増えると言い張って。とうとう2012年10月に当別ダム完成。すると、2014年3月には新たな需要予測を発表し、なんと予測値を25万トンも下方修正！

以前の予測は当別ダムを造るためのデッチ

札幌市水道の給水量の実績と予測



佐世保地区工場用水の実績値と予測値



アゲだったことがミエミエ。

2013年度以降、小樽市、石狩市、当別町の3市町は当別ダムから給水していますが、札幌市はしてません。それでも、すでに当別ダム建設のために札幌市は106億円を出資していますし、さらに給水を始めたら毎年約20億円を支払わねばならないそうです。こんなことにならないよう、造る前に、その必要性をしっかりと吟味しなければならない。行政の示す根拠をしっかりとチェックするのが議会の役目ですよね。

そこで、先ほどの一日最大給水量の急激な増加の根拠の1つ、工場用水の需要予測をみてみましょう。(右上) これまた、急に激増するという予測です。

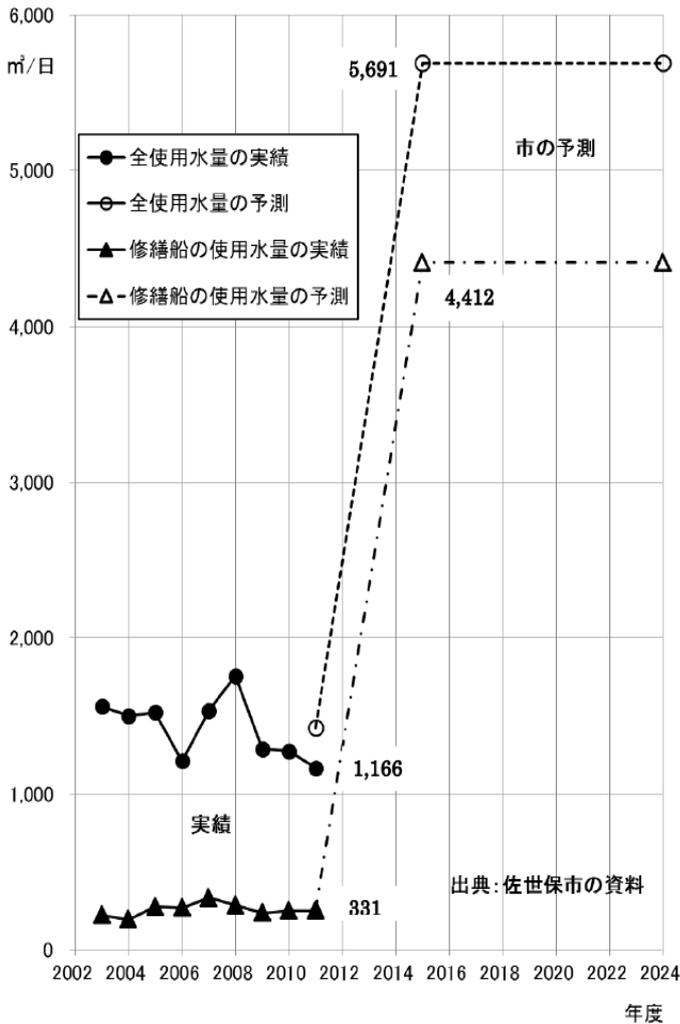
わずか4年で直近の実績値の3.5倍にも工場用水が増えるなんて、佐世保市は急に工業

都市に変貌するとでもいうのでしょうか？よほど水を使う業種の大企業がやってくるのでしょうか？

いえいえ、その理由は、SSK(佐世保重工業)にありました。工場用水の大口需要者であるSSKです。2014年秋、同社は造船部門を縮小して、修繕船部門を拡大するという経営方針を発表しました。修繕船の売上比率をそれまでの13%から25%に拡大するというのです。修繕部門では船体の洗浄に多量の水を使うので、売り上げが2倍になれば水の使用量も2倍に増えると水道局は考え、SSKの水需要予測を急増させました。同社が発表したのは比率を2倍にすることであり、売上そのものは1.2倍にも満たなかったのですが、水道局は2倍どころか、SSKの水使用量を4年後には5倍になると予測しました。水増しどころではない、とんでもないデッチ上げです。

実績はたんなる数字？

図2 SSKの使用水量の実績と市予測



しかし、27年度予算作成のために水道局が出した工場用水の需要見込みは、1,848 m³でした。2年前の予測値の3分の1以下に縮小しています。自ら誤りを認めたようなものです。

この予測の誤りは再評価の際、一日平均給水量や一日最大給水量の予測を押し上げ、4万m³の水不足、それを解決するためには石木ダムしかないとの結論に導いていきました。

そして、その石木ダムのための莫大な財源は結局市民が背負い込むことになるのです。

だからこそ、それでいいのか、今こそ水需要予測の見直しを議会から水道局へ求めてください、とお願いしたのですが…。

私たち2団体から30分ほど説明した後、委員長が「これより質疑に入ります」と言ったものの、委員からは誰ひとり質問無し！

請願者のSさんが「私たちの請願に賛同していただけるのならいいのですが、採択の前に反対意見を言われても、その場ではもう私たちに発言の機会を与えられませんので反論ができません。私たちの説明に納得して頂けないなら、今ここで質問して下さい」とお願いしましたが、それでも皆さん、ダンマリ。

傍聴者からも、「議会は何をすることですか？沈黙をすることですか？何か言わんですか！」と促す発言がありましたが、それでも質問はなく、休憩に入り、30分後に再開となりました。

再開後は、それぞれの会派でまとめた意見を一方的に述べて、全会一致で不採択。その意見とは、「請願者は実績に重きを置きすぎている」「実績は単なる数字」「実績主義では発展が生まれない」「水が豊かであれば企業誘致もできたかもしれない」などなど。

委員の皆さんはバラ色の夢を描くのがお好きなのか、実績は軽視して、希望的楽観的予測に基づき佐世保市を

発展させようとお考えのようです。失敗した時の責任は誰がとるの？石特委員の皆さんがとってくださいます？

「平成25年度までに約115億円の支出をしているので、あと残り235億円の財政支出をする形になろうかと思う」（平成26年9月5日企業経済委員会水道事業課主幹・川野氏の答弁より）

知事や市長に「ダムネーション」鑑賞を強制したい

「今こそ考えよう石木ダムと強制収用～未来を決めるのは私たち」1.18佐世保集会

実行委員をつとめての感想

今川正美

「集会に果たして何人来てくれるだろうか？」という主催者の心配は全くの杞憂でした。500人収容の会場はほぼ満杯で熱気につつまれました。

映画『DAMNATION (ダムネーション)』の内容が実に素晴らしく説得力に満ちていました。映画のチラシには「役立たずのダムを取り壊せ～すべては川の自由のために。常識を覆した挑戦者たちのドキュメンタリー」とあります。

発電・灌漑・洪水防止のためだとの触れ込みで莫大な経済的コストをかけて、アメリカ全土に7万5千基ものダムがつけられたそうです。しかし、実際にはそうした期待を裏切って、川は変貌し、魚は絶滅したといえます。

ところが、生態学者の克明な調査や川の自由を求め続けた人々のエネルギーが、ダムを撤去させることになりました。最後のシーンでは、巨大なダムの壁に二人の男が大きなハサミを描き付けるユーモアたっぷりの映像でした。いや～、お見事！

私は、この映画に出会うまで制作会社「パタゴニア」のことは全く知りませんでした。創業者のイヴオン・シュイナード氏は語っています。「破壊的ですぐ役立たなくなるダムを建てたのなら、それを片付け、自然を元通りにする責任が私たちにはあるはずだ」と。

第二部での講演——馬奈木昭雄弁護士は「石木ダムを考えることは、私たちの暮らしを考えること」として、日々の節水、自然を守る、生活のあり様を変える必要を話されました。八木大和弁護士は、佐世保の水需要のデタラメさや川棚町の上流ダムで治水は悪化した、と分かり易く説明されました。

この石木ダム反対集会は、主催者の予想をはるかに超えて大成功でした。

私の石木ダムとの関わりは、1982年の「強制測量」反対の闘いからです。当時、リヤカーに



座って数珠を手に「石木ダムを造らないでください」と哀願する老婆の姿が、今でも印象深く目に焼き付いています。

ダムに反対するのに難しい理屈はいりません。他人の生活を犠牲にし素晴らしい自然を破壊して、自分の欲しいものを手に入れる、という所業が果たして許されていていいのでしょうか？

熊本の「荒瀬ダム」は、全国で初めて取り壊されることになりました。もはやダムの時代は過去のものとなった、というのが国際的な流れだと思います。

戦後復興のためだと「土建国家」として再スタートした日本は、この70年間道路や空港、ダム建設が骨の髄まで浸み込んでいます。結果、1千兆円を超える借金を抱えた今、無駄な公共事業から卒業する時だと思います。

強制収用を目論む中村県知事や朝長佐世保市長らダム推進派にこそ、映画『DAMNATION (ダムネーション)』鑑賞を強制してみたいですね！

集会宣言

「ダメよ、ダメダメ」「いいじゃないの～」

これは言わずと知れたお笑い芸人による昨年の流行語大賞であるが、石木ダム建設予定地の川原地区にとっては、この「ダメよ、ダメダメ」「いいじゃないの～」のやりとりを、四十年の長きにわたって長崎県政と繰り返している。

いや、「いいじゃないの～」と穏やかなことではない。石木ダム建設計画が動き出した当初から今まで、県は一貫して威圧的な振る舞いを行ってきた。静かな里の純朴な住民たちに金と脅しで揺さぶりをかけて、長い年月をもって築き上げた融和と親睦の地域社会を滅茶苦茶に破壊し、我々は消し去ることのできない大きな心の傷を負わされた。

昨年七月、県は立ち入り調査や付け替え道路工事の着工を試みたが、我々の強い意志と団結力により実行させることはなかった。しかし、県は直ちに強権を発動し、通行妨害禁止を求めて仮処分の申し立てを長崎地裁佐世保支部に行った。ついに反対派に対して初めて司法手続きに踏み切ったのだ。今まで話し合いで解決をと何度も口にしてきたことが、円満解決を強調する県の単なるPR活動であったことが改めて鮮明になった。

だが、時勢は私たちに味方している。

佐世保市の人口流出は深刻な状況で、昨年の転出超過数は全国千七百十八の市町村の中でワースト六位と輝かしい記録を打ち立てた。残念なことだが、この先の佐世保市の行く末も目に見えている。人口減少に比例するように給水量も年々右肩下がり…。これでよくもまあ水道用水が足りませんと言えたものだ。

まだ記憶に新しい一月十八日の「今こそ考えよう石木ダムと強制収用」佐世保集会は、主催者の心配をよそに、五百席の会場が溢れかえった。ダムの受益地である佐世保市で、これほどまでにダム反対の世論が高まりを見せているということを実感できる機会となった。

今やダム建設などのモノづくりはもはや時代遅れだ。インフラは新規に整備するのではなく、いかに維持していくかを基本的理念としなければならない。洪水への備えも、受け止めるのではなく、いかに受け流すかが求められている。色褪せた石木ダム計画に翻弄されることはない。未来志向の石木ダム建設白紙撤回に大義はある。この地がダムの適地ではなかったということ、我々がこの身を持って体現しよう。

石木ダム建設計画白紙撤回、右決議する。

2015年3月15日

石木ダム建設絶対反対同盟 第三十六回3.14大会

「先月の平均給水量」

(佐世保市水道局調べ)



2015年3月の平均給水量	67,979 m ³ /日
2014年3月の平均給水量	68,294 m ³ /日
5年前3月の平均給水量	71,063 m ³ /日
佐世保地区の保有水源量	105,500 m ³ /日

